

次のオーバーツーリズムに関する課題文を読み、観光客／地域住民／行政それぞれの立場を検討した上で、共生に向けてどのような取り組みが必要か、あなたの考えを述べてください。(800字程度)

増える観光客 暮らしと両立に知恵を

訪日客が再び増え、観光地のにぎわいが戻ってきた。一方で、混雑やマナー違反を懸念する声もあがる。観光と住民の暮らしをどう両立させるか。各地域の経験を共有し、持続可能な受け入れの拡大につなげる必要がある。

レンタルした着物で古い町並みを歩いたり、食堂で海鮮丼をほおぼったり。8月の訪日外国人旅行者数は、コロナ禍前の2019年の9割近くにまで回復した。円安で日本旅行は割安感があり、今後も増加は続きそうだ。

政府は3月に閣議決定した観光立国推進基本計画で、25年の訪日客数を過去最多の19年(3188万人)を上回る水準にする目標を掲げる。滞在中の消費額は、年間5兆円をめざすという。

ただ、一部の地域では、ごみのポイ捨てや私有地への無断進入、民泊による騒音、市バスの混雑などが起きているとして、「観光公害」だとの不満の声も増えている。SNSで話題になった場所に客が殺到する光景も、各地で見られる。

こうした問題について、政府は省庁横断の対策を今月にもまとめるという。各地域の声や先行する取り組みを集め、有効な施策を講じる機会にしなければならない。

沖縄県の西表島では、来年から来訪者の人数制限や入域料を導入する予定だ。広島県の宮島では、今月から訪問税を徴収する。過剰な混雑や環境負荷の緩和につながれば、観光客と住民双方の満足度の向上に資するだろう。

宿泊税の導入も各地で広がる。ただ、こうした施策については、金額設定での公平性や、仕組みの効率的な運用について、情報共有が必要だ。収入を環境保護や観光客の受け入れ体制整備に役立てることも求められる。

訪日客の「マナー違反」には、文化や習慣の違いに基づく悪意のない行為もある。京都市などは挿絵入りの看板や多言語のデジタル掲示板を使った対策に取り組む。国も空港での呼びかけや観光業者を通じた周知など知恵を絞ってほしい。自治体の対策への財政支援も考えるべきだ。

訪問の時期や時間帯、場所の分散化も重要だ。混雑状況の発信や、人気地点の早朝・夜間の開放がすでに試みられている。政府も、東京―富士山―関西といった人気経路以外の情報提供を手厚くするような工夫をしてほしい。

観光は産業のすそ野が広いだけでなく、人々の互いの国際理解にも大きく貢献する。本来、「公害」と呼ばれるいわれのない交流の機会を、大切に育てていきたい。

出典：「増える観光客 暮らしと両立に知恵を」朝日新聞 2023年10月2日朝刊